

令和6年度 徳島大学・高知大学・香川大学共催「授業について考えるランチセミナー」 7月 <授業とAIの幸福な関係を考える> 報告書

■ 開催日時

第1回: 7月11日(木) 12:05~12:50

第2回: 7月18日(木) 12:05~12:50

■ コーディネーター・講師・登壇者

コーディネーター: 高畑 貴志 (高知大学学び創造センター)

第1回: 講師: 高畑 貴志 (高知大学学び創造センター)

第2回: 講師: 高畑 貴志 (高知大学学び創造センター)

■ 参加者数

第1回: 70名

第2回: 55名

■ 内容

第1回: まず講師から、オンライン投票ツール sli.do を用いて、参加者の生成 AI に関する考え方について投票という形での意見聴取が行われた。その結果、投票者の約半数が大学業務に ChatGPT を利用しており残りの約半数は利用していないことや、大学が組織的に ChatGPT を教育に導入していくことを前向きに考える割合は投票者の半数を超え、民間企業が実施した類似の調査結果よりも ChatGPT の教育への利用について積極的な考え方を持っていてセミナーに参加している割合が大きいことが明らかになった。

引き続き、講師からは AI がどのように発展してきたか、また生成 AI がどのような仕組みでデータから学習し、また質問の回答を生成しているかといった、生成 AI に関する概要について説明がなされた。その後、生成 AI の特長・性能や、ハルシネーション（正しくない回答が行われる）を始めとする生成 AI の仕組みに由来する注意点や限界について、ChatGPT の実際の応答を交えた解説があった。さらに、ChatGPT 以外の文章生成 AI として Copilot や Gemini を挙げ、以前はこれらの生成 AI 独自の特長とされていた検索エンジンを併用した応答やテキスト以外（画像等）でのやり取りが、最近の ChatGPT には取り入れられていることが紹介された。続いて、生成 AI の大学教育への応用例として、大阪大学 SLiCS センター教育学生支援部門「授業における生成 AI の活用法(https://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/project/generative_ai/support_ai.html)」や、国立情報学研究所「教育機関DXシンポ(<https://www.nii.ac.jp/event/other/decs/past.html>)」等でこれまで提供された情報の紹介があった。

第2回: 第2回の冒頭では、前回取り上げた主要なポイントについて振り返りを行った後、前回のアンケート等から寄せられた質問等についての講師から回答や、簡易に作成できる英会話生成ボットなどの情報提供があった。

その後、教育における生成 AI の使用について、文部科学省事務連絡「大学・高専における生成 AI のいった量的データの分析における生成 AI の教学面の取扱いについて

(https://www.mext.go.jp/content/20230714-mxt_senmon01-000030762_1.pdf)」等を引用しながら、各大学で生成 AI の活用に関するガイドラインの作成が求められていることや、生成 AI が学生の主体的な学びを妨げないこと、とくにレポート等に安易に使用することで学生自身の学びにつながらないだけでなく、剽窃や盗用にあたる可能性があること等が言及されていることの説明がなされた。さらに生成 AI を利用する上で発生しうる著作権上の問題について、文化庁の作成した資料に基づく説明があった。最後に、生成 AI はほとんどすべての授業においてレポートなど学習の評価に影響を与える可能性があることに対して注意喚起があり、また、その問題の対処方法について大阪大学 SLiCS センター教育学生支援部門「評価における生成 AI の影響 (https://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/project/generative_ai/assessment_ai.html)」を引用し、生成 AI に対応した評価方法のアイデアが紹介された。最後に講師から今後の生成 AI をめぐり留意すべきと考える点が示され、その後参加者からの質疑応答が行われた。

■ 成果と課題

参加者アンケートを行った結果、「5. 本セミナーは今後の教育活動において有益なものであった」という設問において、第 1 回・第 2 回とも全ての回答者から肯定的な回答（「とても当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計）を得ることができた。また、他の設問においても回答者の大半から肯定的な回答が得られた。

表 アンケート設問「5. 本セミナーは今後の教育活動において有益なものであった」回答結果

	第 1 回 (7 月 11 日)	第 2 回 (7 月 18 日)
とても当てはまる	16 (47.1%)	13 (72.2%)
どちらかといえば当てはまる	18 (52.9%)	5 (27.8%)
どちらかといえば当てはまらない	0 (0%)	0 (0%)
まったく当てはまらない	0 (0%)	0 (0%)
合計	34 (100%)	18 (100%)

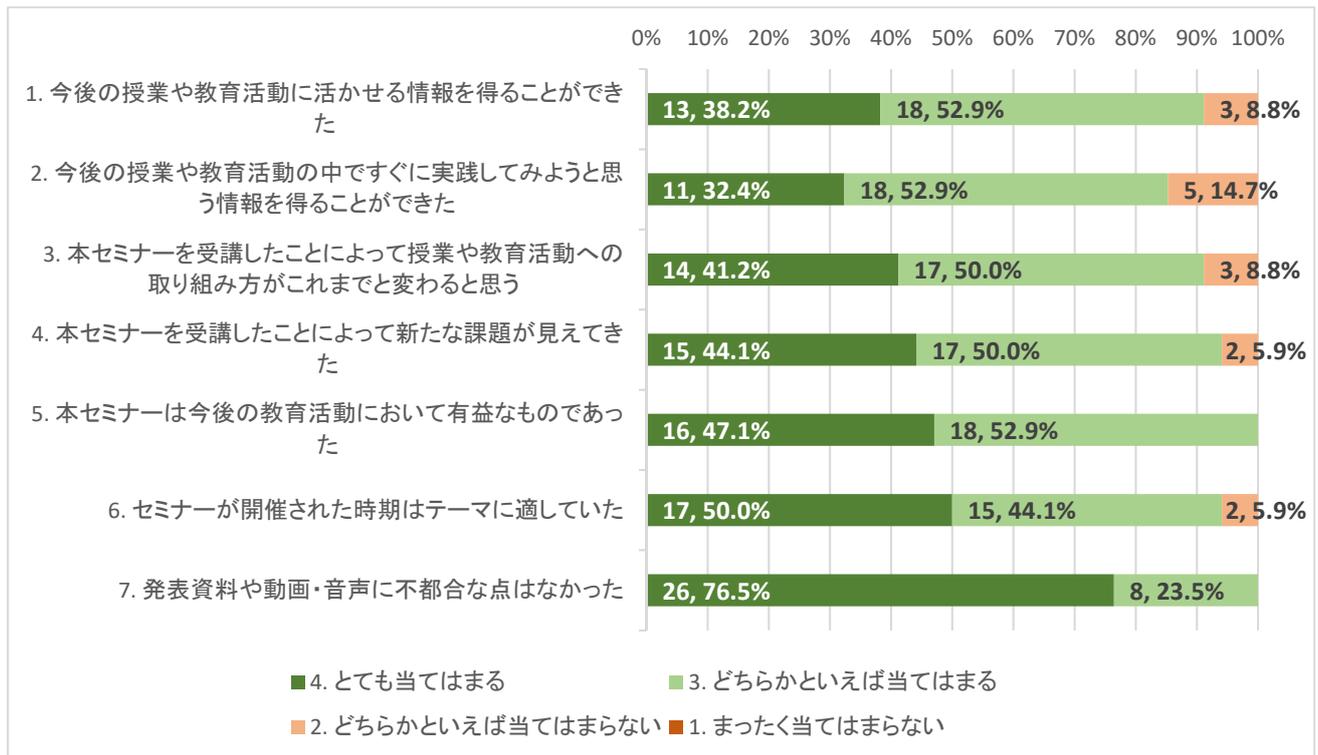
※その他のアンケート項目の結果はグラフを参照。

自由記述においては、第 1 回では ChatGPT だけでなく Copilot や Gemini といった様々な生成 AI の種類をはじめとした、生成 AI に関する基礎知識について知ることができたという記述が目立った。また第 2 回では、生成 AI を大学の授業で用いる際の例や注意事項について学ぶことができたという感想が寄せられた。

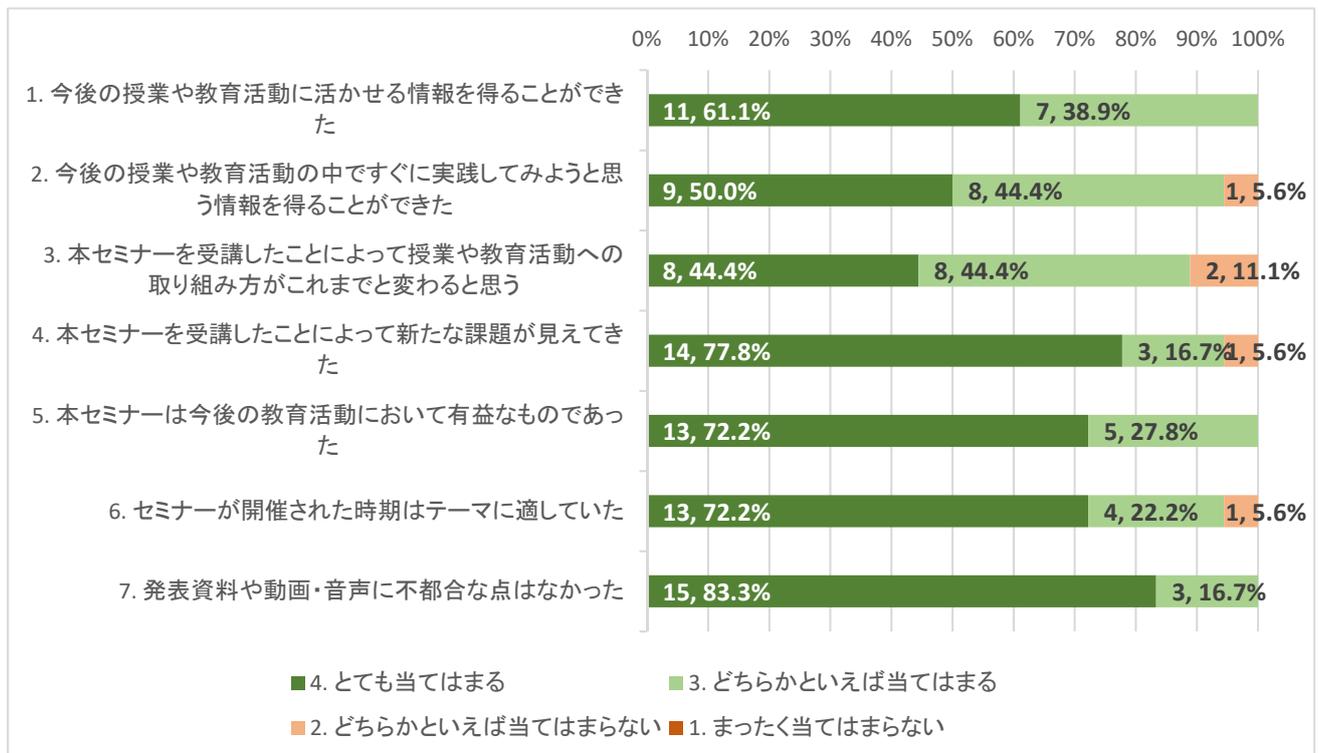
一方で、今回は生成 AI に関する概要に関する講義が主であったため、より実践への活用事例、とくに実際の大学における授業でどのように生成 AI が用いられているかについて、より踏み込んだ紹介を期待したいといった要望も寄せられた。生成 AI に対応した、あるいは生成 AI を活用した事例はまだ報告件数が少ないためただちにに対応することは難しいことも考えられる。しかしながら生成 AI はすでに社会に浸透しつつあるため、教育場面においてもどのように生成 AI と共存を図るかは喫緊の課題と言える。したがって、今後は生成 AI に関する動向に加え、生成 AI に関連する実際の教育実践の事例を収集、あるいは開発することが求められていると言えよう。

■ アンケート回答結果

第1回 (n=34)



第2回 (n=18)



■ セミナーの様様（アーカイブ動画より抜粋）

授業・教育での生成AIの利用 (1)

文部科学省事務連絡「大学・高専における生成AIの教学面の取扱いについて」(2023.07.13)では、生成AIを利活用することが有効と想定される場面として、以下を挙げている。

- ブレインストーミング
- 論点の洗い出し
- 情報収集
- 文章校正
- 翻訳やプログラミングの補助等の学生による主体的な学びの補助・支援



生成AIと評価の問題

学生の学修成果を評価する際に、以下のような問題が生じます。

- 筆記試験の解答、論文、レポート等を生成AIが作成できてしまう。
→学生自身が内容を理解していなくても、良い成績が取れてしまう。
- 「使用禁止」としても、それを徹底させる方法がない。
- 学生の提出物が生成AIで作成されたものであるか否かを確実に判定できない
- Webページのコピーペの場合は、コピーペ元を発見できるかもしれないが、生成AIでは難しい。

